

木下式音感教育法
第31回東京合同音楽祭
感想文集

平成21年2月11日(祝・水) 新宿文化センター大ホール



木下音感協会

<目次>

| | | | |
|-------------------|------|------|----------------|
| 貴重な機会に感謝して | 東京都 | 指揮者 | 山田 和樹……………1 |
| 次回を期待して | 宮城県 | 副園長 | 清野 純代……………2 |
| 30年の幕が下りて | 富山県 | 教 頭 | 藤澤喜久子……………3 |
| 10年ぶりの音楽祭 | 大阪府 | 保護者 | 生熊美由樹……………4 |
| ぼくも独唱に選ばれるんだ! | 埼玉県 | 保護者 | 横塚 貴英……………5 |
| 子供の底力を知った音楽祭 | 岐阜県 | 保護者 | 渡辺 尚美……………6 |
| ドレミの「ド」さえ知らなかったのに | 富山県 | 保護者 | 中田亜紀子……………7 |
| 我が子のように祈る! | 宮城県 | 保護者 | 佐々木直美……………8 |
| 3人の子供が参加して | 長野県 | 保護者 | 松重 智子……………9 |
| 今のは、高いミだよ! | 神奈川県 | 保護者 | 野澤 実香……………10 |
| 親がすべき教育と言われて | 愛知県 | 保護者 | 國島 充恵……………11 |
| ファ・ファントマだ | 宮城県 | 保護者 | 内藤 岳……………12 |
| 音楽以外の何かを身につけて | 大阪府 | 保護者 | 松本智恵子……………12 |
| 全員ピタッとそろってスゴイ! | 大阪府 | 保護者 | 坂上 直子……………13 |
| 一生に一度の経験をして | 富山県 | 保護者 | 二俣 匡子……………14 |
| 新たなステップとして | 長野県 | 保護者 | 宮澤真由美……………14 |
| 音楽祭を鑑賞して | 東京都 | 保護者 | 松岡 素子……………15 |
| 9回目でもきんちょうした | 東京都 | 小学5年 | 薄井 理子……………16 |
| 音感に出合えてよかった | 東京都 | 小学4年 | 天野 雄介……………17 |
| 音楽嫌いだったお父さんが! | 東京都 | 小学4年 | 中込 彩香……………17 |
| 本当の天使になりたい | 長野県 | 小学3年 | 宮澤 希……………18 |
| わたしたちは天使のたまご | 長野県 | 小学6年 | 小林玲緒菜……………18 |
| 先生のことわすれません | 富山県 | 年長 | ふたまたはるか……………18 |

貴重な機会に感謝して

指揮者 山田 和樹

『最初が肝心』—よく聞く言葉であり、どんな物事にも当てはまるのだろうが、教育の世界では殊に重要であると考えている。

性善か性悪かという話は別にしても、人間の中に怠惰性が存在するのはまぎれもない事実であり、最初から設定されていけば何でもないことが、途中からの実行には意欲を持てなかったりするだろう。

30回以上も続く東京合同音楽祭においても、最初の第一回の中からプロフェッショナルオーケストラを伴奏に招聘したところに意味があるはずで、「幼稚園児の伴奏だから最初はピアノで様子を見て、後からオーケストラに切り替えていけばいい」という考えだったならば、逆に30回も続いてこなかったに違いない。



参加する木下式実施園もしかり。自分の母園であるしらぎく幼稚園では、合同祭への参加は任意ではなく、最初から全員参加と決まっていたから良かった。

ところで、大人なら誰もが一回は行ったことがあるだろう「カラオケ」の意味というのは案外知られていない。歌が入っていない「空(カラ)のオーケストラ(オケ)」でカラオケなのだ。さて、ここで思うのは、一体何人の大人がカラオケでなく「生のオーケストラ」で歌った経験があるだろうか、ということ

とである。たとえ独唱ではなく合唱だとしても、そうは生オケと共演できる機会はないのだ。

感受性豊かな子供が生オケ伴奏で歌える合同祭という場は、まさに一生に一度のチャンスであり、しつこい位に言えば、このチャンスに巡り逢えたからこそ、今自分は指揮者になっているのだ。

もちろん合同祭参加の意義は、生オケ伴奏であることの他にもたくさんあり、この話は自分の拙い切り口に過ぎないのは言うまでもないだろう。

自分の場合は、あの長い合同祭の一日が実に鮮明な記憶として残っていること自体が貴重だと思うのだ。特に舞台袖の独特の匂いと緊張感、大舞台の上でライトと拍手とを浴びる高揚感は忘れられない。そう、その一日にあったのは普通の世界ではなく、舞台という名の『非日常』だったのだ。

幼稚園児にして舞台に立つ喜びと生オケで歌う喜びとを実感した、というと末恐ろしい気が

する方もいるだろうか。でもその末にあったのは、指揮者という音楽に直接携われる幸福な人生だった。しかし、木下式音感教育や合同祭の開催は、専門的な音楽家を産むためにあるのではない。あくまで「手遅れにならないように」という発想から出発しているし、自分自身も音感楽院の中ではそれほど優秀な生徒ではなかったのだ。

合同祭に参加した子供は間違いなく幸せである。日常には無い『非日常』を経験したのだから。その貴重な機会を親の意志で勝手に奪ってしまうケースがあることに自分はとても虚しさと悲しさを感じる。子供はこれから「人生という名の舞台」を歩いていくのだし、「非日常」があるからこそ日常が映えるのではないだろうか。

今改めて思う。その貴重な機会をごく当たり前のプレゼントのように下さったしらぎく幼稚園に深い感謝を。

次回を期待して

宮城県 副園長 清野 純代

先週の春の陽気とは一変し、冬に逆戻りしたように雪がたくさん降っています。音楽祭が先週でよかったとホッと胸をなで下ろしています。

お蔭様で音楽祭本番は、何とか大きな失敗も無く演奏することができ、客席で聴いていた我が園の保護者も「これなら、わざわざ東京まで連れて来て歌わせた甲斐があった」と満足いただけたようです。音楽祭が終わって、あるお母様に「新宿文化センターは駅から遠くて大変ではありませんでしたか？」と尋ねたところ、「とんでもない。わが子がステージで懸命に歌う姿と声を聴いたら、そんなことちっとも気になりませんよ。私は涙がでてきました」と言われました。その言葉が私は本当に嬉しかったです。こんな声が、次の音楽祭の参加希望に良い影響を与えてくれると信じています。



終わったばかりの東京合同音楽祭ですが、ずいぶんと時が経ったように感じます。本番を終えて得た興奮や反省の気持ちを薄れさせることなく次へとつなげていきたいと思っています。

30年の幕が下りて

富山県 教頭 藤澤喜久子

フィナーレが終わり、緞帳が下りると、30年間私自身がかかわってきた音楽祭に幕がおりました。例年ならば「来年、また頑張ろう」「〇〇幼稚園の歌声のようになりたい」と悔しさの中にも次回への思い入れがありましたが、今回は「終わった！とうとう終わってしまった」。やがてこの日がやってくることを心のどこかで覚悟していたものの、なんとも言えない複雑な気持ちでこの瞬間を迎えました。

私にとって最後の音楽祭参加。音楽祭が進行されている中にでも、いろいろな場面で「30年間」の様々な思いが、そこそこに鮮やかに思い出されたり、重なったり、ある年にタイムスリップしたり、思い出が走馬燈のように頭の中を駆けめぐりました。我が園の子供たちにも、大合唱の指揮を担当した千々石先生にも「私へのはなむけに頑張ってもらいたい」と話し見守りました。

音楽祭が終わって、これまでの気持ちをお伝えしたいと何度かペンをとりましたが、何から書けばよいのか言葉が見つかりません。できることなら、「自分でクラスを持って自分で音感を実践してみたかった」と身の程知らずの思いが頭をよぎります。我が園で先生を採用する際、「音感教育を実践している」旨を伝えますと「頑張ります」と就職するものの「音感が苦手、できない」との泣き言を言う先生も少なくありません。私も音楽は苦手な分野ですが、園で実施している以上、微力ながら努力してきたつもりです。



何十年前かに、富山である幼稚園が公開授業を行いモデル園になった時、「私たちも負けたくない！何とか先生たちと頑張らなくては！」と思ったこと。そんな気持ちが、今日まで私を支えてくれたように思います。それだけに、若い先生たちには「できなくて悔しい！」「負けたくない！」という思いを持って、園で実施する音感教育をはじめ、何事にも取り組んで欲しいと強く感じるのです。

10年ぶりの音楽祭

大阪府 保護者 生熊美由樹

今から10数年前、我が家の4歳違いの姉妹は千里丘学園幼稚園でお世話になりました。入園当初、幼稚園で行われる音楽会で年長児の歌声に感動したのもつかの間、長女も年長になり「本当に感動するよ。行ってよかったって必ず思うから」と先輩お母様に勧められ音楽祭の参加を決めました。

幸運にも二人とも独唱児として舞台に立たせていただくことができました。合唱の練習の合間をぬっての独唱練習、時には厳しく、頑張った日は褒めていただきながら、日々積み重ね本番当日を迎えました。親の私は一体、何をすればいいのかもわかりませんでした。担任の先生は「体調管理、特に喉だけは気をつけて欲しい」とそれだけでした。たくさん先生方に支



えられ音楽祭に参加したことで、我が家の娘たちは頑張る事、我慢する事、その向こう側には達成感や充実感で一杯の喜びのひと時がある事を知ったようです。先輩お母様の言葉通り本当に参加してよかったと思いました。次女の音楽祭が終わった時には充実感と同時に、もう子ども達の素晴らしい歌声を生で聴くことはないのだろうととても寂しくなったものでした。

卒園してから長女は10年、二女は6年経ちますが、姉妹はそれぞれ自分のやりたい事を見

つけ頑張っています。やりたい事をやるには、しなければならない事がたくさんあり、それには我慢も必要です。時々くじけそうになってはまた立ち上がり、前を向いて頑張って進む、そんな毎日です。

長女が好きで続けているのはピアノです。今年、幸運にも木下先生から10年ぶりに音楽祭の舞台に立たせていただくことになり、我が家には3回目の新宿の舞台となりました。客席の隅々まで響き渡る子ども達の歌声に、私はただただ感動しました。

音楽祭の帰り道、新宿駅、東京駅、新幹線のホームで、参加したお子さんがキラキラした瞳で娘を見つけ、「あ！ピアノのお姉ちゃんだ！」と声をかけてくださいました。その時の娘の嬉しそうなこと。ピアノの練習は孤独です。娘の練習量は多くない方ですが、それでも逃げ出したくなることもあるようです。舞台の袖で聴いて思い出した協会歌、子ども達の歌声、そして「ピアノのお姉ちゃん」と言ってもらえたこと、東京合同音楽祭……。 「ここを巣立った者として恥ずかしくないように、頑張らなくちゃ・・・」とそんな話をしながら大阪に帰りました。

このような機会を与えてくださった木下先生をはじめ、娘の演奏に温かな拍手とエールをくださった皆様方に心から感謝します。

ぼくも独唱に選ばれるんだ！

埼玉県 保護者 横塚 貴英

私が木下式について初めて耳にしたのは、長男が年少の時、幼稚園主催の「ひな祭り音楽会」でのことでした。プログラムには年少から年長の合唱の他に、数名の年長児の独唱もありました。



長男はそれを見て「ぼくも年長になったら独唱に選ばれるんだ！」と自宅のソファーに上がって「めだかの学校」を大きな声で歌っていたものでした。

昨年12月、信じられないことに、その長男が独唱に選ばれたとの連絡がありました。驚きと共に「あんなに大勢の前で堂々と歌うことができるのか」と親として不安になりましたが、当の本人は親の心配をよそに「ぼく、独唱に選ばれたよ。すごいでしょ」と誇らしげでした。

本番当日、新宿文化センター大ホールに足を踏み入れ、会場の大きさと観客の多さにびっくりしました。こんなに素晴らしい会場と本物のオーケストラで、練習成果を発表できる園児は、なんと幸せなのだろうと思いました。合同音楽祭を終えて、我が子の集中力や忍耐力が増し自己主張をはっきりできる人間になったと感じています。次男、三男もぜひ、音楽祭を体験させたいと思っています。



子供の底力を知った音楽祭

岐阜県 保護者 渡辺 尚美

帰宅して数日経ちますが、まだ夢の中にいるようです。それだけ日常ではありえない夢のような感動の2日間でした。

娘は年中まで、発表会の度に目をパチパチするチック症になったり、夜泣き、おねしょ、頭痛が続きました。「歌の練習があるから幼稚園に行きたくない」と大泣きするのを無理矢理バスに乗せるような状態だったので、「年長になっても音楽祭は嫌がって行かないだろう」と思っていました。そんな子が行事を一つずつこなす内に、チック症も出なくなり自信をつけ「東京の音楽祭に行きたい。先生と行きたい」と言い出したのです。家族みんなで思わず「大丈夫？ 練習いっぱいであつらいかもしれんよ」と言ってしまいました。「こんな事言っはいけないなあ」と思った矢先、娘は「がんばってみたいの。がんばるから行きたい」と力強く言い切ったのです。親が子供の背中を押さなければならぬのに逆に押された気分でした。



独唱に選ばれたと聞き、「精神的にもつだろうか」と心配しましたが、娘はケロっとした顔で帰ってから寝るまで歌い続け、泣き言一つ言わず音楽祭の日をむかえました。声高らかに堂々と大きな舞台上で歌う娘の姿に胸がいっぱいになりました。「これが発表会前に泣き続けていた我が子か」と信じられないくらいでした。

そして、何より、大合唱の迫力には圧倒されました。初めて会う他園の幼児と歌うのに、ここまで息をあわせられるものかと驚きました。もっと驚いたのは、すべてを終えて戻ってきた娘の一言でした。「どうだった、緊張したでしょう」と聞いた私に「楽しかったのよ。」とうれしそうな答え。「えっ！緊張しなかったの」と聞くと「うん、がんばろうという気持ちだったんだもん」という返事に、私は「この子の底力をわかってなかったんだなあ」と思いました。音感教育を通して、娘はたくましく成長し大きな自信と強い精神力を身に付けることができました。

ドレミの「ド」さえ知らなかったのに

富山県 保護者 中田亜紀子

子供の歌声がこんなにも人を感動させることができるのか。オープニングの幕が開いたときにそう思いました。どの子も自信に満ちた顔で本当に楽しそうに歌っていました。当日初めて合わせたとは思えないくらい息がぴったりで素晴らしいオープニングそれぞれの園での練習の成果だと思います。

我が園の出番——。大きな口を開けて堂々とした歌でした。それほど、人数が多いわけではありませんでしたが、他に負けない歌声でした。ドレミの「ド」さえ知らずに入園した3年前。たった3年間でこれまでに音感が身に付き大きな舞台上で歌う子供たちを見て涙が止まりませんでした。



独唱でマイクの前に立った時は、顔が硬かったので心配しましたが、歌い出すと表情が柔らかくなり堂々と歌うことができ安心しました。家では真剣に歌った姿を見ることがないので、初めて見た我が子の一面にただただ感動しました。あれだけ大勢の前でも成果をきちんと出すことができたのは毎日の練習のおかげだと感謝しています。今回、音楽祭に参加して、全国に同じように頑張る友達がいっぱいいることを知って、より頑張ろうという気持ちが湧いたようです。

余談ですが、東京へ行って人の多さや電車の長さにびっくりしてしまいました。サンシャイン60が空に届きそうなほど高かったことやアシカショーを見たこと、たくさんの思い出を話してくれました。お友達や先生との楽しい思い出がたくさんできたようです。親子で旅行をするのとは違った経験ができて参加させて本当に良かったと思います。



我が子のように祈る！

宮城県 保護者 佐々木直美

東京合同音楽祭に参加しました。オープニングとフィナーレは300名以上の子供たちの迫力ある歌声と一心に集中するその瞳に、私も大きな拍手をいっぱい送っていました。リハーサルをすることなく、各地より集結した知らない人同士で本番に挑みますが、歌詞の発音、声の強弱、伸ばす所、止める所など乱れることなく、見事な歌声でした。日ごろより、各園で練習してきた成果なのでしょう。

我が園の50名による斉唱は「オーケストラの生演奏でどんな歌声になるのだろう」と期待と緊張でいっぱいでした。舞台上に子供達が整列し、先生の指揮に集中しのびのびとした歌声がホールいっぱい響きわたりとても感動しました。ただ歌うだけではなく、練習してきた中で養った「集中力」「協調性」「忍耐力」「舞台マナー」の成果を発表できる場がこの東京合同音楽祭なのだとしみじみ実感しました。

独唱には我が園から4名のお子さんが出演しました。我が子のように「頑張って」と祈る思いでした。近くに座っていた保護者も同じように「頑張って」とつぶやいているのが分かりました。オーケストラの伴奏で大勢の人の前である舞台上で独唱するという事は涙が出るほど大役なのです。しかし、あの緊張の中、真っ直ぐ前を見てオーケストラの指揮者に合わせ堂々と歌いこなしました。

全てが終了し、集合場所に帰ってきた子供たちの顔は、誇らしげで達成感と充実感に満ち溢れた表情でした。父兄の方々が一人ひとりに「立派だったよ」「とても上手だったよ！」と声をかけ子供たちも笑顔で一杯でした。

当日、残念なことに急な事情で出席できなかった友達があり、子供たちは「〇〇君がいないよ！？」「どうしたんだろう！？」と心配していました。自分のことだけを考えがちなこのご時世に「小さいながらも人のことを思いやる優しい心が育っているんだなあ」と思うと親として温かな気持ちにさせられました。一回りも、二回りも成長する貴重な経験をさせて頂きました。子供が行きたがっていた東京タワーにも行くことができ忘れられない思い出になりました。



3人の子供が参加して

長野県 保護者 松重 智子

東京合同音楽祭を鑑賞したのは3回目となります。初めは、次女が年長で独唱のステージに立った時です。入学当初、涙なくして通えなかった娘が堂々と独唱した姿は今でも思い出すと胸が熱くなります。この時の次女の成長ぶりには目を見張るものがありました。

昨年30回の音楽祭に我が教室が初めて団体出演できると聞いたときは、音楽祭を未経験の長女、長男も参加させていただけるとあって、とても嬉しかったのを覚えております。今年も団体で参加できると聴き、子供たち自身がりビングで、お風呂で外でも歌詞を唱え、まずは東京でレッスンを受けられることを目標にますます張り切って教室に通いました。

東京でのレッスンは、木下先生から直接のご指導を受けられること、更に木下音感楽院の生徒さんの美しい声を聴くことができることを3人共とても楽しみに出かけ、昨年、同様にかなり刺激を受けた様です。日帰りで東京から帰ってくれば疲れているはずなのに、その晩は興奮冷めやらぬ様子で先生がおっしゃった言葉や手の動きを話してくれ、目をキラキラさせて歌声を聴かせてくれました。

そして、迎えた音楽祭当日、今年も初めから最後まで緊張感ある充実した時間を過ごさせていただきました。木下式を受けステージに立つ子供たちの美しい声はもちろん、一人ひとり



の姿勢や集中した視線に、毎回驚かされるのです。ふだんは外で走り回っているお子さんも音感教育を通して、行儀よくできること、また、心を一つに音楽祭を作りあげた経験は一生の宝物になると思うのです。全国から集まった小さな子供たちに、子供の可能性や子育てのヒントを私自身まで学ばせていただいているように思います。

音楽祭を通して初めて出会う小さな生徒の皆さん、教室のお友達、そして我が子もこの東京の大きなステージに立てたこと、この木下式に出会えたことを人生の糧としてたくましく成長して欲しいと願っています。

今のは、高いミだよ！

神奈川県 保護者 野澤 実香

各園の発表は、同じ教育法を取り入れていても個性があり、どこもよく練習してきた様子が伝わり楽しく拝見しました。また、80名を超える独唱児は、だれ一人歌詞を忘れることもなく、皆きれいな声で最後まで歌っていました。わずか5～6歳の幼子が広い舞台上、たった独りで歌うのはどれほど緊張することでしょう。練習の成果を存分に発揮し、皆とても立派でした。

素晴らしかったのは、舞台いっぱいに並んだ数百人の園児が一斉に奏でるカスタネット奏と大合唱です。私のような素人は「これだけの人数では、音がばらついてしまうのでは…」と心配に思いましたが、音感っ子たちは見事に一つになって演奏し歌いあげたのです。日ごろ、別々に学んでいる子供たちがリハーサルもせずに、このようなことができるのは、しっかりとした基礎教育がなされているからだと思います。



年長の夏休みのある日。テレビを見ていた息子が耳に残った高い音を「今のは「高いミ」だよ！」というのです。半信半疑でピアノの音を確認めると、それは正に「高いミ」で非常に驚いたことを覚えています。この能力は息子に限らず、日々のカリキュラムの中で真剣に学ぶ大勢の子供たちが体得しているのではないのでしょうか。

正直申しますと、入園当初はもっと自由遊びの時間がたくさんある園を選べばよかったのではと思ったこともありましたが、卒園を前に、大好きな歌をとでも上手に誇らしげに歌う息子を見て、木下式に出合えて本当に幸せだったと思います。



親がすべき教育と言われて

愛知県 保護者 國島 充恵

娘から「独唱に選ばれた」と聞かされた時、「まさか、うちの子が！」と、嬉しさよりも不安の方が大きくなりました。落ち着きのない娘が果たして東京の大舞台で歌うことができるのだろうか心配でたまりませんでした。

当日、東京合同音楽祭が盛大に始まりました。他の園のお友達が一生懸命に頑張っている姿を目の当たりにし感動しました。しかし、娘の出番が近づくにつれて不安な気持ちが増幅していきました。他のお友達と同じように、我が娘も堂々と歌い終えることができるだろうか、途中で間違えることはないだろうかと不安な気持ちに苛まれました。娘の出番が近づき、なんとなく娘と目が合ったように思いました。

娘が返してくれた笑顔に少し安心しましたが、私の心臓は高まったままでした。いよいよ娘がマイクの前に登場です。私は心の中で娘と一緒に歌っていました。舞台上で堂々と歌う娘の姿に涙が止まりませんでした。あっという間に時が流れフィナーレを迎えました。様々なイベントがあり十分な余韻に満たされましたが、「もう少し素晴らしい歌声に浸っていたいな」という気持ちになりました。



音楽祭終了後、木下先生にお礼を申し上げました。先生から「音感教育で行っている様子は、本当は親御さんがやるべきことなんですよ」という言葉をいただき、はっとさせられました。木下式音感教育法は、正しい姿勢で上手く歌うことだけではなく、人としての生き方も身に付けさせるのだと気がついたからです。

東京の大舞台で歌えたことはとてもよい経験になりました。この素晴らしい思い出が娘の人生の大きな節目となることを期待しています。

「ファ・・・ファントマだ！」

宮城県 保護者 内藤 岳

ファントマって何だい？ といった程度にしか考えていなかった息子の歌声と木下式音感教育法でしたが、東京合同音楽祭を聴き幼稚園児でもこれほどまでできるのかと驚き、そして感動したというのが実感です。

転園してきた息子は、人前で歌うなんて考えられないような性格でしたが、音楽祭で大勢の観客の前で元気良く歌う姿を見て、自信がついてきたのだなあと感じました。今では練習中の曲を家で歌って聴かせてくれるようになり、音楽を通して様々なことを学んでいるのだと子育てに関与できない父親でも感じているところです。

音楽祭では、参加園児たちの集中力と一体感を肌で感じることができました。また、木下式を学び成長した子供たちの世界にも通用する歌声（演奏）も聴くことができ、息子だけでなく親にとっても貴重な時間となりました。

音楽以外の何かを身につけて

大阪府 保護者 松本智恵子

我が家の音楽祭参加の動機は、本番のためというより、園内でのレッスンを通して少人数でも恥ずかしがらずに声を出すことで、子供の自信につながるのではないかと思ったためでした。子供の方は当初、乗り気ではありませんでしたが、「初めから嫌と決めずにまずはやってみよう！」と励まし参加させました。

息子は内弁慶な性格で家の中では親も舌を巻くほどの理論家なのに、一歩外へ出るといつも私の後ろに隠れてしまい、近所の方に挨拶もできない程でした。遊び相手は女の子ばかりで、歌もみんなと一緒にないと大きな声を出せませんでした。ところが、レッスンが始まると毎日嬉しそうにレッスンの話をしてくれ、家でも起立し胸をはって歌うようになったのです。当日、素晴らしかったのはもちろんですが、自分から相手に聞こえる大きな声で挨拶ができるようになり、「音楽」だけではなく「何か」を得てくれたように思います。



全員ピタッとそろってスゴイ！

大阪府 保護者 坂上 直子

発表会好きの娘は、年中の頃から東京行き（音楽祭出演）を決めていました。園での練習も仲良しのお友達と一緒に楽しかったようです。当日は大きな舞台にオーケストラの演奏で一生懸命歌っている姿に感動しました。我が園の子供が歌う合唱もたいへん素晴らしかったのですが、それぞれの幼稚園で練習を重ね、リハーサルなしで演奏したカスタネットが全員ピタッとそろった姿は「本当にスゴイ！！」と思いました。

大勢の子供たちと一緒に歌う大合唱も初対面の先生の指揮に合わせて歌う美しい歌声に感動しました。子供にとってこの経験は大きな自信となり、今後の成長に必ずプラスになるものと思います。



～お礼の手紙・アンケートより～

一生に一度の経験をして

富山県 保護者 二俣 匡子

この度、合同音楽祭に参加させていただき、ありがとうございました。富山から東京への旅は、何もかもがドキドキワクワクの連続でした。独唱の前奏が流れたとたん、親の私も涙が出てきてしまいました。娘は堂々と歌っているように見えたのですが、終わった後のお辞儀がドキドキを物語っているようでした。その後の大合唱や園の合唱はとてもリラックスし、歌を楽しんでいるのが伝わってきました。司会の方も言われましたが、「一生の内一度できるかどうか」の体験をさせていただいたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

新たなステップとして

長野県 保護者 宮澤真由美

先日は東京合同音楽祭に出演させていただき、ありがとうございました。二度目の独唱挑戦ということで、本当に頑張って練習してきました。木下先生のレッスンを経験させていただいたことは、本人にとって大きな喜びであり期待がふくらんだように思います。厳しい先生を信じてレッスンにはげみぬけたことは不安を自信に変え、そして、あの大舞台をやりとげたことは、新たな感動として娘の心に残り、新たなステップに進む勇気、力になるのだと確信いたしました。歌い終え、私たちのところに戻ってきた時の満足げな表情でそのことが分かりました。今回もまた、大きく成長させていただいたこと感謝の思いでいっぱいです。

さらに二人の妹たちも合唱の方に出演させていただきました。大きな緊張の舞台で心を一つにし力を出し切って帰ってきた時の目の輝きは、忘れられません。貴重な体験と感動をありがとうございました。木下式に出合えて本当に嬉しいです。



音楽祭を鑑賞して

東京都 松岡 素子

音楽祭に行って、最初に驚いたのが会場の広さでした。オーケストラもついた、あのよう
大きなステージに毎年、上がることができる（上がる努力をしている）子供たちに感心しまし
た。今まで、一般の幼稚園、学校などで様々な子供の発表を見てきましたが、今回の音楽祭の
ように音を外すことなく、姿勢よく、まっすぐ、前を向いてキビキビとしたステージは初めて
です。本部の楽院だけでなく、全国の幼稚園生たちもぴったり息が合う素晴らしい教育がされ
ていることを実感しました。あと何年か後、息子があのステージに立てるよう親子とも努力し
たいと思います。



9回目でもきんちょうした

東京都 小学5年 薄井 理子

平成21年2月11日、私にとって9回目の合同音楽祭が行なわれました。小さい頃は、合同音楽祭といえば、きんちょうにうもれる、一年で最悪の日のように思っていたけれど、今年は朝から、「さすがに9回目ともなれば、きんちょうせずに、上手くきりぬけられるだろう」と思い発声練習も集中して受けることができました。

オープニング、大合唱、幼稚園と児童部の合唱、書き取り…。

ついに弟とのデュエットの時、今まで全くしていなかったきんちょうが一気に押し寄せてきました。心ぞうがものすごくバクバクして自分自身、(こんなにきんちょうしていいの?)と思うほどでした。とうとう、前の子の歌が終わり、舞台上上がる時が来ました。

(いっしょにおじぎをして…)と思ったら弟がしていなかったのです、それこそ、「エッ??」と叫びそうになりました。

そんな私の様子に気づいたのか、弟もあわてておじぎをしました。その後は、「ピッチを高く」とか、「祐太(弟)の声を聞く」とか考えるだけでせいっぱいだった。なんとか歌いきった後は、とにかくほっとして舞台をおりる前、ついため息をついてしまいました。

なぜ、こんなにきんちょうしたのか、私はとても不思議です。木下先生には、十分なくらいレッスンしてもらったし、そんなにきんちょうするとは、思いませんでした。こんなにきんちょうしても、いつも通りできたのは、木下先生のおかげだと思います。「たくさん練習してよかった」と改めて思いました。



音感に出合えてよかった

東京都 小学4年 天野 雄介

「パンパパーンパパパ」客席の前でオーケストラの人が音を出し、合同音楽祭が始まった。大勢のお客さんが見ていたけれど、この日のためにたくさん練習したから緊張しても、上手くいった。今年は独唱がなかったけれど、聴音があった。緊張したので100点は取れないかと思ったのに、本番で100点をとれてよかった。合唱団の方は、全体的に良い出来だったと思う。毎年、こうやってオーケストラと一緒に合唱、または、独唱ができていいと思う。音感に出合えてよかった。本当に良かった。



音楽嫌いだったお父さんが！

東京都 小学4年 中込 彩香

私は今年の音楽祭はとても面白かったし、楽しかったし、嬉しかったです。

面白かったのは、カメの曲とバナナの曲の指揮をした男の先生の指揮がとても面白かったです。たとえば、「バナナの曲」だと「バナナが一本ありました」というところで、バナナの形を作って、指を1本出して、「バナナが1本ありました」とやっていました。

楽しかったのは、増田教室の人と仲良しになって遊んだことです。

嬉しかったことは、私が独唱している時に、お父さんが感動して泣いてしまったことです。それ以来、私が独唱した「空がこんなに青いとは」を歌うようになりました。音楽が嫌いだったお父さんが歌を歌っていたので、びっくりしました。



本当の天使になりたい

長野県 小学3年 宮澤 希

合同音楽祭では、合唱も独唱も気持ちよくしっかりと歌えました。みんなで歌った時、去年よりも声がしっかり出て楽しく歌えました。独唱でも「かぜの」「ぜ」の聲が下がらないで歌えてよかったです。



いつも会っていない私たちの声を木下先生の思い通りにできてしまう先生はすごいなあと思います。いつか私も先生のようになりたいです。

私は天使のたまごの「たまごのから」をやぶって本当の天使になりたいです。

わたしたちは天使のたまご

長野県 小学6年 小林玲緒菜

東京合同音楽祭の独唱はとても気持ちよく歌え最高でした！！木下先生のおかげです。指導を受けて、工夫して歌えるようになりました。

天使のこえ合唱団の人たちの声がキレイで「私もこういう風になりたいなあ…」といつも思います。私たちの教室は「天使のたまご」です。理由は知りませんが「まだ未熟でたまごですが、いつかきつとからをやぶるぞ～」というようなことです。ちなみに「今年こそ、からをやぶるぞ」とみんなで熱心に練習しています。今回の音楽祭はとてもいい音楽祭になりました。ありがとうございました。

先生のことわすれません

富山県 年長 ふたまた はるか

どくしょうを させてくださって ありがとうございます。はじめて 木下先生を みたとき おうたの じょうずな先生だと おもいました。どくしょうのとき さいしょは きんちょうしたけど 山田先生の しきを見て きもちよく うたえました。山田先生のしきはわかりやすい しきでした。

これからも たくさん おうたを うたったり ピアノの れんしゅうをしたり がんばります。しょうがつこうへ いても 木下先生のこと ようちえんで おんかんをしたことわすれません。木下先生も おげんきで いてください。

木下式音感教育法

第 31 回東京合同音楽祭

感想文集

2009 年 3 月 1 日 発行

発行 木下音感協会

東京都新宿区上落合 2 - 2 8 - 8 〒161-0034

TEL 03(3367)2395

<http://www.kinoshita-onkan.com>